

# 学問

を

## あらためて考える

—『学問のすゝめ』初編刊行から150年—

# 150

1872

2022

2022年、初編刊行から150年を迎えた『学問のすゝめ』。そこに記されたメッセージは21世紀の今も決して色あせていない。慶應義塾では、あらためて学問を考えるきっかけにしておうと、『学問のすゝめ』150周年プロジェクト「ガクモンノススメ」を展開。今回の特集でもその教えと魅力の一端をお伝えしたい。



法学部政治学科2年  
小久保真聖君



商学部3年  
金澤萌美君



常任理事・法学部教授  
岩谷十郎

OI

座談会…

今だからこそ読みたい  
『学問のすゝめ』

理念と現実の綴れ織りから

展開される論の面白さ

—『学問のすゝめ』初編刊行150年  
というこゝで、岩谷教授にとって、『学  
問のすゝめ』の魅力とは何でしょうか。

岩谷 『学問のすゝめ』は初編から第  
十七編までの小冊子を合冊した本で  
す。各編、それぞれの課題が扱われ、  
読み返すたびに、新しい発見がありま  
す。福澤のもの見方は斬新であり、  
当時の状況を生き生きと現代の私たち  
に届けてくれるという印象を受けてい  
ます。二人はどんなきっかけで『学問  
のすゝめ』を読みましたか。

金澤 実は今回、初めて読みました。  
人としての生き方や、政府と国民の関  
係を考え、多くのことを学べました。

第八編の男女平等についてなど、現代  
にも通じる内容が大変印象的でした。

小久保 身近に福澤に詳しい方々が多

く、その影響で読みはじめました。特に繰り返し読んだのは初編ですが、やはり「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」という、時代を超えて人目を引き付ける一文を初編の冒頭に入れたセンスは素晴らしいと思います。

**岩谷** 「天は人の上に人を造らず」は有名な一文ですが、そのあとの「されども」から続く一文への展開が、実は大事です。現代語訳には反映されていない「有様」という言葉に注目してください。「有様」とは現実です。福澤は「天は……」の一文で「理念」を示します。この理念と有様（現実）のコントラストこそが、『学問のすゝめ』で福澤が貫いている主張です。現実が理念に照らされたときに課題が現れ、それを克服する方策が論じられていく。この理念と現実の綴れ織りが論を進めていく仕掛けです。

**小久保** タイトルである『学問のすゝめ』を一番表しているのが初編だと思います。福澤は学問とは現実に役立つものであるとあり、学問を目的にせず、それを使って何かをすべきだという考えを記しています。

**金澤** 学問の目的は国民の質を上げることであり、最終的には、社会の安定や平和につながっていくという記述から、私はあらためて自分なぜ学問をしているのか、そして、人々が学問をする意味について考えさせられました。

**岩谷** 福澤は、学問を身に付けることによって、有様の中の違いがすぐになくなるとは言わず、その違いを持ちながら、我々は生まれながら平等であるという考えを持てるようになる。封建時代の身分や門地による差別が残る現実にあつて、新しい学問を通じた新しい認識が、古い制度や価値を相対化し、薄れさせていく。そして、本当の理念的なものに近づいていくと説きました。ただし、これは時間がかかり、すぐに結果が出るものではない。そのような時間のかかる営みへと人々を誘う本であると思います。

### 現代にも通底する 話題に富んでいる

——現代の私たちが『学問のすゝめ』に感銘を受けるのはなぜでしょうか。

**金澤** 現代社会は早く結果を求めるあ

まり、福澤の述べた「時間をかけて、じっくりと根本的なところから見直していこう」ということがされていません。だからこそ、現代の私たちにも刺さるのだと思います。

**岩谷** 学問のあるなしが社会を生きしていくパスポートとなることを、福澤は人々に投げかけました。明治時代には、国家試験が導入され、勉強すれば人々は、社会的な上昇が可能となりました。立身出世の時代の到来です。『学問のすゝめ』には「競争」の原理があり、そこでは他者との摩擦や競争が生じます。福澤は個人や国家間の競争を否定しませんが、人間の天性は、人間交際（社会のこと）の一員として貢献することにあると、第十編で記しています。

——競争の原理から生じる「怨望」にも触れていますね。

**岩谷** 第十三編では、人からねたまれ、人をうらやむ感情をいかに克服すべきかについて触れています。ねたまは人と自分を比較する気持ちから生まれますが、競争とは比較です。第十二編では、ある基準で比較すれば、上下優劣の関係の順位が与えられても、別の基

準から見れば逆になる。比較をするならば全体を見なさいと、基準の相対化・多元化を説くのです。

——現代のSNS社会について、第六編と関連付けてどう考えますか。

**小久保** SNSにより、言論の自由が実質的に担保されてきました。それは、福澤の目指した文明社会の形式的な達成につながります。現代のネット社会における炎上について、私刑という言葉で表されますが、第六編では「私裁を禁ずる」という一節がありますね。

**岩谷** 明治3年に制定された「新律綱領」では、自分の祖父母や親が殺されたときに仇討ちをした場合には50回鞭でたたかれる、その程度の処罰でした。江戸時代には、仇討ちは封建道徳の鑑とされ公認されていました。明治3年の社会はまだそうした様相をとどめていたのです。それが、明治15年には、計画性を持った殺人として通常の殺人罪よりも重い罪として罰せられるようになります。福澤は第六編で、お上の命令に下々の者が服従するという有様からの脱却が必要だと述べます。政府と国民は契約関係にあり、国民は税金を払い、政府は法律により国民の生活



解されたのでしょうか。

**岩谷** 理解するのは難しかったでしょうね。福澤は第六編で、封建時代には義士と讃えられた赤穂浪士を、明治時代においては無駄死にだと述べました。そのことで反対論を持つ人々から暗殺の危険にさらされた。そこで、封建道徳の時代と今は違う、そのようなかで赤穂浪士を褒め続けるのはかえって彼らに失礼だと、回りにくい弁明をしました。現代は誹謗中傷、いわば私裁が渦巻いています。この状況を福澤が見たらどう思うのでしょうか。

**人としての生き方、よりどころとする理念や理想がある**

——令和の現代に『学問のすゝめ』が

や生命を守る。国民は政府と同等の立場にあり、法律は国民が自らに課したものだと言いたのです。

——福澤の考えは人々に理解

教えてくれることとは何でしょうか。  
**小久保** 『学問のすゝめ』で示された勉強の範疇は、義務教育という形で今の日本では達成できていると感じます。今後はもう一段階進めて、理想の部分に力を入れることを社会全体で進めるべきです。近年、理系的や即席な有形の学問が重視されがちで、当然にそれも重要ですが、だからこそ無形の学問も軽視せず意識してじっくりと育てることが大切です。

**金澤** 現代はテクノロジーから社会情勢、環境問題まで、人間が影響を受ける要因の多い大変な時代です。だからこそ、一個人としてどう生きるかを考えることが大切で、そのためにもひたむきに学問をすること。それをより多くの人が達成できれば、国や世界の発展、そして平和の構築にもつながっていくと信じています。

**岩谷** 『学問のすゝめ』で貫かれているモチーフとは、当たり前を疑う視点だと思っています。当たり前という有様を疑問視して課題化していくその先に、我々が目指すべき理念や理想があるはず。それらを常に忘れずに歩んでいきたいものです。

「学問」とは何か——『学問のすゝめ』の男女平等論から



福澤研究センター  
教授  
西澤直子  
にしざわなおこ

「学問のすゝめ」といえば、誰でも冒頭の名句を思い浮かべることでしょう。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」。では『学問のすゝめ』は人間の平等を説いた本なのでしょうか。「いや、実は世の中には賢愚貧富、貴賤上下があると続き、その差は学ぶと学ばざるにある。だから『学問』をしなければと勧める本なんだよ」と答える方も多いと思います。確かにそれも間違いではありません。でも『学問のすゝめ』を貫く大きな主題は、やはり人間の平等にあると思います。誰に対しても機会が均等に与えられる社会を作らなければなりません。それが福澤諭吉の強い思いでした。彼は、男女も平等でなければならなかった近世では、儒学の陰と陽の概念も

加わり、女性の能力は生来男性より劣り、生涯を通じて生きていくべきであると信じられていました。それに対し福澤は、『学問のすゝめ』第八編で「男も人なり女も人なり」と述べ、男女どちらも「人」であり、男性も女性も一日たりとも「この世」に欠くことができない同等の存在であると主張します。第十三編では「人の心の性は男子も女子も異なるの理なし」と述べ、第十五編では常識を疑って真実を見出したガリレオと比して、「男は外、女は内」という男女関係の常識の変革に挑んだジョン・スチュアート・ミルを紹介します。そして、平等を実現するためには、男女の立場を入れ替えて考えてみよと言います。もし逆の立場であったらどう感じるのか。相手になって考えれば、おのずと答えが見える、それが福澤の主張です。ではあらためて、なぜ『学問のすゝめ』なのか。福澤は、学問とはただ難しい文章を読んだり作ったりすること

ではないと言います。『学問のすゝめ』の中で福澤は、社会は他人の智慧や財に依存しない独立した「人」同士の交際によって形成されると考えます。交際で大切なのは、相手の立場を想像できる力です。自身の自由や独立と同様、相手の自由と独立を敬い、双方が成立する道を探ることができる力です。日々の生活の中で情報を得、智徳を育み、自身が歩むべき道を考える。それが「学問」です。福澤はこの著作の中で、「学問」のために多くの示唆を与えてくれています。そして福澤は『学問のすゝめ』最終第十七編の最後の一文を次のように締めくくります。「人にして人を毛嫌ひする勿れ」



『東京日日新聞』より（明治7年発行）  
提供：福澤研究センター

150年前、明治維新の時代に発表された『学問のすゝめ』だが、現代人の心にも響く数々の名言がちりばめられている。その中から10の名言について補足を加えた現代語訳で紹介する。

顔色容貌を快くして、

一見、直ちに人に厭いとわれるること無きを要す

## 第17編

顔色や表情をいきいきと明るく見せ、相手にイヤな印象を与えないことは、人と交際する基本的なモラルである。

天は人の上に人を造らず、  
人の下に人を造らずと云えり

## 初編

人に生まれつきの格差はない（だが実際の人間社会にはさまざまな格差が存在する。その理由には学ぶか、学ばないかの差である）。

一身独立して  
一国独立する

## 第3編

民衆はまずは自身の独立を目指し、それによって一国を豊かに強くする。そうすれば西洋の力など恐れるに足りない。

## 第13編

人間には多くの欠点があるが、人間社会においてもつとも有害といえるのが「怨望（ねたみやうらみ）」である。

凡およそ人間に不徳の箇条多しと雖いえども、  
その交際えんぼうに害あるものは  
怨望えんぼうより大なるはなし



進まざる者は必ず退き、  
退ざる者は必ず進む

## 第5編

世間の物事は、進歩しないものはそのまますたれていき、進む努力を続けるものは必ず前進するものである。

Column

### 手付け最中「学問のすゝめ」

三田キャンパス東門のすぐ隣、文銭堂の本舗では『学問のすゝめ』をモチーフにした最中が販売されています。付属の竹べらを使い、餡を自分で最中の皮に詰め



箱の側面には初編の文章を掲載。賞味期限は2カ月。食べ方が英語でも解説されているので、海外への手土産にも

URL <https://bunsendohompo.com/>



第15編

信じていたことには偽りが多く、疑っていたことが真実であることも多い。一度、自分を疑ってみると意外な事実が見えてくる。

## 信の世界に偽詐多く、 疑の世界に真理多し

## 自由と我儘との界は、 他人の妨げをなすと なさざるとの間<sup>さかい</sup>にあり

初編

人は誰も自由に生きることができない。しかし他人に害を及ぼす「自分勝手」はわがままである。

第8編

そもそもこの世に生まれた者は、男であっても、女であっても、それぞれ果たすべき使命を持った人間であることに変わりない。

## 男も人なり女も人なり

第10編

学問を志したなら大いに学問に励め。農業なら豪農に、商業なら大商人を目指せ！ 小さな安定に満足してはいけない。

## 学問に入らば大いに学問すべし。 農たらば大農となれ、 商たらば大商となれ

第5編

読書とは学問をするための技術で、学問とは物事をなすための技術に過ぎない。実地での経験を持つことが大切。

## 読書は学問の術なり、 学問は事をなすの術なり

Column

## 『学問のすゝめ』150周年プロジェクト「ガクモンノススメ」

福澤諭吉が『学問のすゝめ』初編を刊行して150年を迎えた2022年。まずは先行きが不透明な現代にも有効な道標として、今こそ『学問のすゝめ』を広く理解してもらうべく、慶應義塾は「ガクモンノススメ」プロジェクトをスタートした。

### ● 特設サイト



特設サイトはこちら /



URL <https://www.keio.ac.jp/ja/gakumon150/>

### ● 特別対談動画

伊藤公平塾長が、スペシャルゲストと対談を行う動画を公開。第一回として、塾員でニュースキャスターとしても活躍する櫻井翔さんが登場。前後編で、櫻井さんの心に残った『学問のすゝめ』の言葉や後輩へのメッセージなどをお話しいただいた。第二回もどうぞ期待！



対談シリーズを続々アップ。第一回は伊藤塾長と櫻井翔さんによる対談

### ● 関連する取り組み

プロジェクトのスタートに合わせ、ステッカー4種を作成。慶應義塾史展示館、三田インフォメーションプラザ、三田祭等で配布された。また生協食堂では「勉強つてなんのためにするの？」というメッセージ付きのトレーが使用された。さらに、慶應義塾史展示館ではプロジェクトと連携した展示、秋季企画展「福澤諭吉と『非暴力』—学問のすゝめ150年—」を開催。慶應義塾生協書籍部やキャンパス近隣および都内大型書店などで『学問のすゝめ』と関連書籍をそろえたブックフェアも開催された。



ブックフェアの様子



慶應義塾史展示館での秋季企画展



配布されたステッカー